



# 会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

## 発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会  
発行責任者 横地常広  
編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号  
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722  
ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1～P3 各認定制度で「行列のできるスキルアップ研修会」を開催

P4 臨床検査薬等の災害時供給体制強化に向けて/

「血糖変動を見る タスク・シフト/シェアで広げる糖尿病療養支援」オンデマンド配信中！

P5～P6 都道府県技師会 各地での取り組み（福島県編）

## 各認定制度で「行列のできるスキルアップ研修会」を開催

第74回日本医学検査学会に先立ち、令和7年5月9日に各認定制度のスキルアップ研修会を開催しました。全国学会に併設する各認定制度のスキルアップ研修会は毎年恒例となっています。一部の認定制度では現地参加とオンデマンド配信を併用することで、より理解を深めていただける内容となりました。受講した皆様の感想をご紹介します。

### 認定一般検査技師制度

#### 行列のできるスキルアップ研修会Part XIV

##### グループワークで考える病態(尿検査・寄生虫)

#### 渡邊 隆徳

行列のできるスキルアップ研修会は、オンデマンド配信と現地開催の2部構成で、毎回質の高い学びの場となっています。

今回は第74回日本医学検査学会のテーマ「臨床に貢献する臨床検査技師とは」に沿い、尿定性検査、尿化学検査、尿沈渣検査についてオンデマンド配信で基礎から専門知識まで幅広く学び、現地では「検査データからの病態推論」をテーマに、臨床検査データをもとにグループ討論を行い、講師の先生による解説を通じて理解を深めました。討論を通じて論理的思考や協調性を磨き、異なる視点を得ながら自身の強みと課題を再認識する貴重な機会となりました。また、他施設の検査技師との活発な意見交換を通じ、検査の理解を深めるとともに、人脈を広げるきっかけにもなりました。この経験を今後の業務に活かしていきたいと思えます。

最後に、本セミナーの開催にご尽力くださった講師の先生方、運営関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

#### 四方 智子

今年のスキルアップ研修会は、「グループワークで考える病態」というテーマで開催されました。オンデマンドのみ、オンデマンドと現地の両方での受講が選択でき、私は後者を受講いたしました。オンデマンド

では「尿検査をマスターしよう」という内容で、定性検査、生化学検査、沈渣検査について学習しました。基礎から臨床的意義、検査データの捉え方、病態のステージング、共存物質や前処理法による検査値への影響など、勉強不足であった点を確認できました。現地では、RCPCを行い、患者情報や検査データから推定される病態、実施すべき検査などをグループ内で考え、ディスカッションの内容を発表するものでした。講師の先生方の解説はもちろんです。他グループの見解を拝聴することができ、とても勉強になりました。また、スクリーニング検査を担う一般検査では、各検査の幅広い知識が必要であることを再認識しました。日々の業務において検査データを丁寧に振り返る時間を持ち、診断・治療に繋がる検査が提供できるよう努めたいと思います。

最後に、今回の研修会にご尽力いただきました講師の先生方、運営の皆様にご心より感謝申し上げます。



### 認定病理検査技師制度

#### 行列のできるスキルアップ研修会Part XIV

##### 切出しに必要な知識と技能の習得 -胃・乳腺-

#### 名嘉 正勝

今回のテーマは、「切り出しに必要な知識と技能の習得」で、胃・乳腺が対象です。昨年の研修会に参加し、講師の先生方やグループワークで他施設の方々の意見が聞け大変有意義でしたので今年も参加しました。

今回も最初にオンデマンド配信の事前講習があり、

その後現地開催の実習がありました。講演1では、切り出し方により、病理学的評価やそれに引き続く治療方針が左右されることを痛感しました。講演2では、業務移管を円滑に行う為には病理医との良好なコミュニケーションを維持することと自己のスキルアップが重要であると思いました。実習では、施設により切り出し方法が異なるため、話し合いながら意見をまとめ、グループとしての回答を提示しました。解説では、切り出し方法は一つではないということと、断端陰性ラインを確保すること、腫瘍部分は後に遺伝子検査に必要なため複数個切り出すことなどを学びました。長年勤務していると基本を忘れがちですが、今回の研修会で基本に戻ることができました。今後はこの研修会で学んだ知識・技能を忘れず業務に励みたいと思います。

### 鈴木 淳子

「行列のできるスキルアップ研修会Part XIV」に参加させていただきました。

テーマは「切り出しに必要な知識と技能の習得 一胃・乳腺一」で、切り出し業務における正しい知識と技能の習得を目的とした内容でした。事前にオンデマンド講義を視聴し、当日は講義を担当された先生によるご講演があり、切り出し業務への理解を更に深めることができました。講演後のグループワークでは、マクロ写真を用いて「自分だったらどう切り出すか？」を考え、参加者同士で意見交換をしながら切り出し図を作成しました。グループワークでの他施設の方々との作業は貴重な機会であり、意見交換を通じて多くの学びを得ることができ、とても有意義な時間になりました。研修会に参加し、切り出しへの理解を深めることができたと共に、病理医との連携や教育体制の重要性についても改めて考える良い機会となりました。今後の業務に今回の学びをしっかりと活かしていきたいと思います。

最後に、研修会を企画・開催して下さった運営の皆様、講師の先生方に感謝申し上げます。



### 認定臨床化学・ 免疫化学精度保証管理検査技師制度 行列のできるスキルアップ研修会Part XIV

#### 持続可能な臨床化学・免疫化学を考える

### 榎 亮介

初めてスキルアップ研修会に参加しました。今年は「内部精度管理運用」と「異常値・パニック運用」の2つをテーマにグループワークを行いました。いずれも、誰しもが直面する可能性がある問題の解決・是正策を考えるものでした。絶対にこれという正解がある事例ではないので、それぞれの施設の状況を共有した

うえで、様々な目線からの活発な討論ができたと思いますし、ロジックツリーを用いた解析は初めてだったのでとても勉強になりました。特に、パニック値のテーマについては最近、公表された「医療事故の再発防止に向けた提言第20号」が盛り込まれていたため、本提言をうまく活用した運用を考え、持ち帰れる大変良い機会となりました。また、討論テーマとは別に歓談の中で各施設で困っていることや運用方法について情報交換でき、大変有意義な時間を過ごすことができました。

最後に、本研修会を企画・開催していただきました運営、講師の皆様へ心より感謝申し上げます。

### 熊野 雅英

2025年5月10日、11日に大阪国際会議場で開催された第74回日本医学検査学会に参加しました。鳥取県臨床検査技師会が主管だったこともあり、会場のあちこちに鳥取らしい趣向が凝らされ、学会全体が和やかな雰囲気になっていました。

会期前日に行われた、「認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度 行列のできるスキルアップ研修会」では、VODでの事前学習に加え、現地グループワークに参加しました。

内部精度管理の運用については例題に対し、他施設の検査技師の皆さんと意見交換を行い、各施設での課題や工夫を基に深く議論しました。自施設では当たり前だと思っていた運用が、他施設では異なるアプローチをとられていることに新鮮な気づきが得られ、また皆でロジックツリーを用いた具体的な対応策について、経験を交えながら話し合えたことは良い刺激となりました。

異常値・パニック値運用のグループワークでは、緊急性の高い検査結果への対応について議論しました。迅速かつ正確な情報伝達の重要性や、医師との連携体制の構築など、多岐にわたる課題が浮き彫りになりました。メンバーそれぞれの経験談から、実際に発生した事例や、それを防ぐための工夫を共有できたことは、非常に実践的な学びとなり、緊急時におけるチーム連携の重要性を改めて認識させられました。

2日間の学会を通じて、最新の知見に触れるだけでなく、グループワークを通して様々なバックグラウンドを持つ他施設の検査技師の皆さんと交流し、情報共有できたことは大きな収穫となりました。臨床検査技師として「+α」の価値を見いだせるよう、今後も取り組んでいきたいと思っています。

来年の学会も、さらに有意義なものになることを楽しみにしています。

## 認定認知症領域検査技師制度 行列のできるスキルアップ研修会Part XIV

### これからの認知症診療における臨床検査の役割と

#### MCIからの認知症予防の重要性を学ぶ

#### 中村 圭介

今回の研修会のテーマは「これからの認知症診療における臨床検査の役割とMCIからの認知症予防の重要性を学ぶ」ということで、日本認知症予防学会の理事長である浦上先生はじめ、実際に臨床で活躍されている先生方の話を聴講できました。認知症予防の新たなステージの治療戦略として、2023年から使用可能となった抗アミロイドβ抗体薬ですが、普段なじみのない薬剤について詳しく知ることができました。研修会最後に今後認知症領域で様々なことを実践していくために、必要な研修についてグループミーティングを行いました。私たちのグループでは嗅覚機能のスクリーニング検査キットの使用体験やコグニサイズの体験教室など現地で実際に参加して経験が得られる研修会の要望が多くありました。今回、研修会に参加してウェブの多い昨今ですが、現地ならではの研修会の良さを感じられました。

#### 福田 智恵子

コロナ禍以降、Web研修のみ参加していましたが、今回久しぶりに現地での研修に参加することができました。久しぶりお会いした方に「ホッと」したり、初めてお目にかかる方も多くおられ「よし、私も若い技師さんに負けないように頑張らなくては」と、改めて身の引き締まる思いがしました。

現在、認知症診療は病気の進行そのものを抑制する新薬“抗アミロイドβ抗体薬（レカネマブ、ドナマブ）”が承認され、認知症予防の新たなステージを迎えています。

作業療法士の先生による、認知症の人との関わりについて気をつけておきたいポイントなど、グループワークも加え講演していただきました。これから増え続ける認知症患者に対して、診療に必要な検査の実施や患者への適切な対応、さらに予防への取り組みなど、多職種連携を密にして病院や施設全体で取り組んでいく体制が必要であると認識しました。

今回の研修で学んだことやグループワークで各検査技師の現状や課題など意見交換したことを基に、認定認知症領域検査技師として認知症治療や予防に今後も貢献していきたいと思いを新たにしました。

## 認定救急検査技師制度 行列のできるスキルアップ研修会Part XIV

### 不明熱を分析する

#### ～原因検索のためのアプローチ～

#### 太田 理子

今回参加いたしましたスキルアップセミナーでは、実際の症例をもとにしたグループワークを通じて、救急医療の現場における臨床検査技師の役割や、検査データの読み取りに関する実践的な知識を深める貴重な機会となりました。

特に印象に残ったのは、患者の背景や臨床状況を的確に把握したうえで、迅速かつ適切に検査項目を選定するアセスメント力の重要性を再認識できたことです。救急現場では、限られた時間と情報の中で緊急度や重症度を正確に判断し、診療に直結する検査情報を提供する柔軟な対応力と判断力が求められます。

本セミナーを通じて、検査値の解釈には専門的知識のみならず、臨床全体を見渡す俯瞰的な視点が不可欠であることを改めて実感しました。

今後は、救急医療においても臨床検査技師がより主体的に関与し、多職種と連携しながらチーム医療の一翼を担っていくことが期待されています。今回得た学びを日々の業務に還元し、現場で即応できる力をさらに高めていけるよう、引き続き研鑽を重ねてまいります。

#### 牟田 誠矢

本研修会では、不明熱に対する検体検査のアプローチをWebで事前に学び、当日は症例ベースのグループワークを通じて臨床推論を実践的に深めることができました。段階的に情報が提示される進行形式は、救急の現場を再現したような臨場感があり、限られた情報から病態を推察し、臨床検査技師として何ができるかを考える貴重な経験となりました。グループ内では、所見の捉え方や検査提案の視点など多様なアプローチが飛び交い、自身の思考の幅を広げる良い機会となりました。普段の業務では得られない他施設の考え方や判断基準に触れ、全国の臨床検査技師との意見交換も大きな刺激となりました。講義資料も分かりやすく整理されており、認定取得を目指す方にも有用な内容だったと感じています。本研修を通じて、「検査から診療を支える」という使命を再認識し、今後はより一層即応力と判断力を養い、主体的にチーム医療へ貢献できる臨床検査技師を目指してまいります。

# 臨床検査薬等の災害時供給体制強化に向けて

## —日本臨床衛生検査技師会と日本臨床検査薬卸連合会が協定を締結—



2025年6月5日、当会と日本臨床検査薬卸連合会は、「災害時における臨床検査薬等の供給に関する協定書」を締結し、同連合会の令和7年度定時社員総会の開催にあわせて調印式を執り行いました。

本協定は、大規模災害発生時において、自治体からの要請を受けた臨床検査の継続や迅速な医療支援活動を目的とし、検査薬や検査機器、衛生材料などの供給体制を相互に連携して確保・維持することを定めたものです。これにより、現場の医療機関が検査機能を喪失することなく、被災地における医療活動の中核を担うことが期待されます。

協定の主な内容としては、災害時に必要とされる臨床検査薬、検査機器、精製水等の品目について、両団体で事前に調整し、保管・配送体制を確保することが盛り込まれました。また、両団体はそれぞれ連絡調整担当部署を定め、災害発生時の迅速な対応を可能とする体制整備も行います。さらに、情報共有の重要性を踏まえ、平時からの連携と情報交換を促進することで、実効性の高い災害支援体制の構築を目指しています。

今回の協定は、全国47都道府県臨床（衛生）検査技師会と、日本臨床検査薬卸連合会の全国7ブロック会との連携強化に繋がるものものであり、地域ごとの実情に合わせて災害支援ネットワークの整備に向けた重要な一歩です。

当会は、今後も災害対策WGを中心として、地域医療機関や関係団体との連携を強化し、国民の命と健康を守るための体制整備に引き続き取り組んでまいります。

執行理事（災害対策担当）直田 健太郎

## 「血糖変動を見る タスク・シフト/シェアで拡げる糖尿病療養支援」オンデマンド配信中！

臨床検査技師が糖尿病管理における検査結果の活用法や患者支援の実践的な手法を習得するために、タスク・シフトの概念に基づいて医師や看護師など多職種と連携する方法や、CGMを含めた実践的な支援内容を学ぶ研修会をオンデマンド形式で開催しています。7月1日から配信を開始しています。会員専用ページから事前参加申込をして、是非、ご参加ください。

テーマ：タスク・シフトによる糖尿病支援の進化 ～臨床検査技師の役割と新たな挑戦～

講演 1 『タスク・シフト・CGMで臨床検査技師に期待すること』(60分)

講演 2 『職種が違っても、目線も違う?? 症例からCGMデータを読み、支援方法を考える』(各30分)

講演 3 『ほかの施設の糖尿病教室を見よう』(各30分)

- ・まだまだSMBG（簡易血糖自己測定）の支援も重要！

- ・集団支援でも参加者を飽きさせない手法

- ・行動変容を促す！ コーチングを用いた糖尿病治療支援

講演 4 『臨床検査技師だって頑張っているもん！日本中の糖尿病療養指士の仲間をつなぐ』(30分)

講演 5 『CGMをきっかけに拡げていこう！臨床検査技師によるこれからの糖尿病療養支援』(30分)

会 期：令和7年7月1日（火）から10月31日（金）

申 込 期 間：令和7年6月1日（日）から10月30日（木）

受 講 料：1,000円（クレジット決済のみ）

点 数 付 与：生涯教育研修制度 基礎教科 20 点

申込・受講方法：会員専用ページより

①事前参加申込み → ②事前参加申込済一覧から受講



# 都道府県技師会 各地での取り組み(福島県編)

全国47都道府県それぞれに臨床（衛生）検査技師会があります。各都道府県技師会では日臨技と連携した活動のほか、地元の医療関連団体や自治体、時には企業とも協力して地域に根差した独自の活動を行っています。今回は、福島県のホームページで、小中学生向けに臨床検査技師の仕事の魅力を発信している福島県技師会の取り組みを紹介いたします。

## 未来を彩る科学の眼差し～次世代育成への情熱～

一般社団法人 福島県臨床検査技師会  
事務局長 渡部 和也

福島県臨床検査技師会は、県民の健康と福祉の向上に貢献するため、臨床検査に関する知識の普及啓発活動を積極的に展開しております。この度、その活動の一環として、次世代を担う小学生・中学生の皆さんに臨床検査技師の仕事の魅力を伝えることを目的とした紹介ホームページを作成いたしました。本事業は、福島県医療人材対策室からの依頼を受け、福島県立医科大学会津医療センター臨床検査部の協力により、2025年3月に完成し、現在福島県のホームページ上で公開されています。



<https://fukushima-iryokids.jp/>

### 背景：地域医療を支える臨床検査技師の役割

近年、医療技術は目覚ましい進歩を遂げ、臨床検査の重要性はますます高まっています。臨床検査技師は、医師の診断や治療方針の決定に必要な客観的な情報を提供することで、チーム医療において不可欠な存在です。しかしながら、その専門性の高さゆえに、一般の方々、特に未来を担う子どもたちにとっては、その仕事内容が具体的にイメージしにくい現状があります。

福島県は、東日本大震災からの復興という大きな課題を抱える中で、次世代の育成に力を入れています。医療分野においても、将来を担う人材の育成は喫緊の課題であり、若い世代に医療の魅力を伝え、将来の選

択肢の一つとして臨床検査技師という職業を知ってもらうことは、地域医療の持続的な発展に繋がる重要な取り組みと言えます。このような背景のもと、福島県臨床検査技師会は、子どもたちが臨床検査技師の仕事に興味を持ち、理解を深めるきっかけとなるようなホームページの作成に尽力いたしました。

### 目的：子どもたちの好奇心を刺激し、未来の医療を担う人材を育成する

本事業の主な目的は以下の3点です。

- 1. 臨床検査技師の仕事内容の可視化：**普段目にする事のない検査室の様子や、臨床検査技師が実際に行っている業務を、動画や写真などの視覚的な情報を通じて分かりやすく伝えること。
- 2. 仕事の魅力の発信：**若手臨床検査技師のインタビューを通して、仕事のやりがいや喜び、そして社会貢献の実感を子どもたちに伝えることで、職業に対するポジティブなイメージを醸成すること。
- 3. 将来のキャリアパスの提示：**臨床検査技師という職業が、人々の健康を支える重要な役割を担っていることを理解してもらい、将来のキャリアを考えるうえでの選択肢の一つとして認識してもらうこと。

これらの目的を達成するために、ホームページは、子どもたちが興味を持ちやすいように、親しみやすいデザインと分かりやすい言葉遣いを心がけて制作されました。



### ◆検査業務を体験するバーチャルツアー

作成されたホームページでは、臨床検査技師の多岐にわたる業務内容を、福島県立医科大学会津医療センター臨床検査部における検体検査部門、微生物検査部門、生理検査部門、病理検査部門の協力を得て、具体的に紹介しています。

これらの検査の様子は、実際に検査室で働く臨床検査技師の指導のもと、正確かつ分かりやすく撮影・編集されました。子どもたちは、これらの動画を通して、臨床検査技師が様々な専門知識と技術を駆使して、病気の診断や治療に貢献していることを具体的に理解することができます。



### ◆若手技師からのメッセージ：

#### 仕事のやりがいと未来への希望

ホームページには、実際に福島県内の医療機関で働く若手臨床検査技師へのインタビュー動画も掲載されています。動画の中では、臨床検査技師になったきっかけや、日々の業務で感じるやりがい、そして仕事を通して成長できたことなどが、自身の言葉で語られています。

特に、子どもたちに向けて、「人の役に立てる喜びを感じられる仕事」「チーム医療の一員として貢献できる」「常に新しい知識や技術を学ぶことができる」といったメッセージが伝えられており、臨床検査技師という仕事の魅力が等身大の言葉で語られています。また、「目標を持って努力することの大切さ」や「科学への興味を持つことの楽しさ」など、子どもたちの将来に繋がるようなメッセージも込められています。



### ◆検査室内の風景：リアルな職場環境を知る

普段は入ることのできない検査室内の風景を撮影した360° ビュー動画も掲載されています。最新の分析機器が並ぶ様子や、臨床検査技師が真剣な表情で業務に取り組む姿を見ることで、子どもたちは臨床検査技師が働く環境をリアルに感じることができます。清潔で整然とした検査室の様子は、臨床検査技師の仕事の正確性や責任感を物語っています。

### ◆福島県臨床検査技師会としての貢献：

#### 地域社会への架け橋

本事業は、福島県臨床検査技師会が地域社会、特に次世代を担う子どもたちに向けて、積極的に情報発信を行う重要な取り組みです。臨床検査技師という専門職の認知度向上を図るとともに、医療分野への関心を喚起し、将来の医療従事者の育成に貢献することを目指しています。

ホームページを通じて、子どもたちは科学への興味を深め、医療分野で働くことの意義や喜びを感じることができるでしょう。また、臨床検査技師という職業が、私たちの健康な生活を支える上で不可欠な存在であることを理解することで、医療に対する信頼感も高まることが期待されます。

福島県臨床検査技師会は、今後もこのような情報発信活動を通じて、地域住民の皆様の健康増進に貢献するとともに、次世代の育成支援にも積極的に取り組んでまいります。今回のホームページが、子どもたちの未来を照らす一助となることを心より願っております。

**（編集後記）** 今年も、日本医学検査学会に先立ち、恒例の「行列のできるスキルアップセミナー」が開催されました。毎年、役員を中心に企画・運営されており、充実した内容となっております。ぜひ多くの会員の皆様にご参加いただければと思います。

また、当会と日本臨床検査薬卸連合会との間で、「災害時における臨床検査薬等の供給に関する協定書」が締結されました。全国各地で進められている行政との災害協定の推進につながることを期待しています。さて、今年6月27日に西日本で梅雨明けが発表され、統計開始以来、最も早い記録となりました。各地で厳しい暑さが続く見込みです。皆様、熱中症にはくれぐれもご注意ください。

（井田）